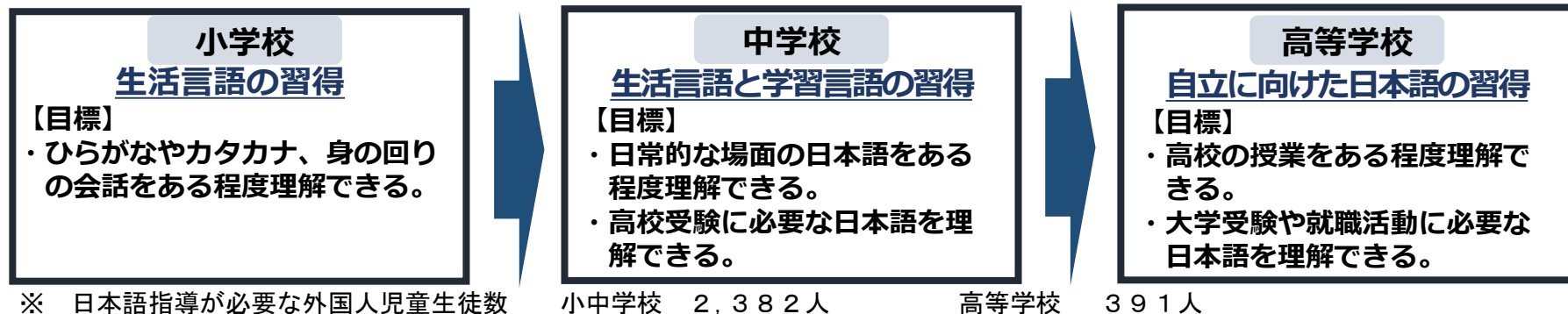


令和8年度の小学校から高校までを貫く日本語教育支援事業の進捗状況をお伝えいたします。

小中高を貫く日本語支援の推進



1 対面による日本語支援（拡充）

小学校・中学校

（20市町の98校に日本語支援員80人を配置）

支援を受けている外国人児童生徒数 1,485人



「**取り出し指導**」と「**入り込み指導**」をバランスよく組み合わせ、個に応じた支援を行うことで、日常会話やひらがな、カタカナ、漢字の読み書きの力が向上しました。



給食・掃除・外遊び等への日本語支援員の関わりが、人間関係の構築や欠席日数の減少に寄与しています。

高等学校

（重点校及び支援校計10校を中心に支援）

10校で支援を受けている外国人生徒数 308人



大学との連携により、日本語力の把握や指導方法の助言といった伴走支援体制を確保できました。



日本語支援員の配置により、個に応じた支援が実現し、日本語力が向上しました。

取り出し指導：外国人児童生徒だけを別の教室へ取り出して指導

【メリット】個の実態に応じた指導の充実

入り込み指導：日本人児童生徒と一緒に学ぶ教室に支援員が入って指導

【メリット】学級での学習と同じ進度で学ぶことが可能

2 オンラインによる日本語支援

小学校・中学校

(筑波大学との連携)

支援を受けている外国人児童生徒数 42人

日本語指導を担当する教員、日本語支援員がいない学校が対象
「1週間に2コマ×25週」を1クールとし、年間2クールで実施



習熟度別にクラス編成し、丁寧に、ゆっくりと指導することで、児童生徒に寄り添った学習を行っています。

高等学校

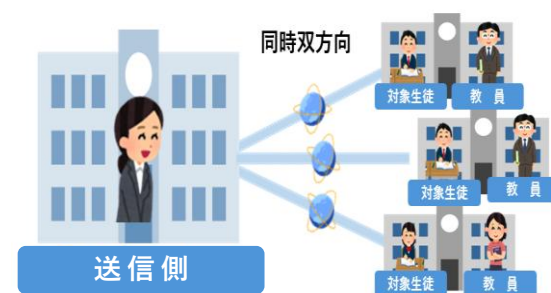
(一般財団法人との連携)

支援を受けている外国人生徒数 28人

JLPT（日本語能力試験）対策指導の実施



放課後等の時間を有効活用し、日本語の定着を促進しています。



3 多言語翻訳アプリケーションの活用【新規】

配備している学校数 小中学校 414校 高等学校 21校

日本語指導が必要な外国人児童生徒（小5～高3）を対象に配備



母語が異なる児童生徒が同一教室で授業を受けている場合であっても、教師の指示や指導の内容をアプリケーションがリアルタイムで多言語翻訳することで、円滑な支援を実現できています。

【課題への対応】

- ・ 年度途中の児童生徒の編入 → 日本語支援員の複数校兼務、校内指導体制の変更で対応
- ・ 社会と理科の学習用語の翻訳 → 教員、日本語支援員がその都度説明